地震・津波から身を守る技能を身に付ける

01.	心肺蘇生の技能を身に付けよう	設定時間	100 分
学習目標	・応急手当の意義と目的について理解する。 ・心肺蘇生法の手順を理解し、技能を身に付ける。		
準備物	・保健体育教科書 ・参考資料(下記①,②参照) ・心肺蘇生技能講習機材一式		
教材 参考資料	 ① 総務省消防庁「救急車を上手に使いましょう」 平成23年3月 http://www.fdma.go.jp/html/life/kyuukyuusya_manual/index.html ② 日本医師会「大切ないのちを救う心肺蘇生法CAB+D」(CABDカード) 平成24年8月 http://www.med.or.jp/99/seisakubutsu.html 		

	平成 24 年8月 http://www.med.or.jp/99/seisakubutsu.html				
	学習活動	留意点			
導入	 ・学習目標を確認する。 ・「救急車の到着時間」について考える。 〈発問〉 「学校で人が倒れ、救急車を呼んだ場合、到着するまでにどれくらいの時間がかかるだろう」 ・救急車が来るまでにできることとして、心肺蘇生法による救命救急があることを知る。 	資料で確認する。交通 事情によって差がある ことを補足する。			
	・「心肺蘇生法」について知る。 ・AED について知る。	・教科書(又は資料)で確認する。			
展開	 心肺蘇生法(CardioPulmonary Resuscitation; CPR) 傷病者が意識障害、呼吸停止、心停止もしくはこれに近い状態に陥ったとき、呼吸及び循環を補助し、傷病者を救命するために行う手当。 AED (Automated External Defibrillator) 自動体外式除細動器のこと。突然心停止状態に陥った時、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態に戻す医療機器。 	・AED については実物を示し、平時の設置場所を確認する。・「心室細動」について教科書(又は資料)で説明する。			
まとめ	・心肺蘇生法の実習を行う。 ・実習を振り返り、心肺蘇生法の手順を再確認する。	・手順や手法は更新される場合があるので、実技指導は消防局員又は日本赤十字社員の指導のもと実施する。 ・資料で確認する。 ・技能維持のために、定期的に講習を受ける必要があることを説明す			
学	学習指導要領との 保健体育(保健分野(3)傷害の防止)				
于自旧守女顺(20)					

自助・共助の態度を身に付ける

02.	避難生活とストレス軽減	設定時間	100分
学習目標	・避難生活で発生する問題点を認識し、少しでも快適な生活を送れるように創意工夫がで きるようにする。		
準備物	・体育館,運動場,校舎見取り図(拡大版)・付箋紙,マジック・ワークシート(P.100~101)		
教材 参考資料			

	<u> </u>		
		留意点	
導入	〈発問〉 「避難生活で起き ・食事 ・ストレス ・支援受ける ・学校再開/	でる問題点について考える。	・時間経過ごとに整理しながらすすめる。・災害時には高知市のほとんどすべての学校が、避難所になることを知らせる。
展開	営について, グ ※なぜ, そうき 〈発問〉 「学校での避難生 ※被災から一定 や避難所コミ	点を改善し、快適な避難生活をおくるための避難所運 ループで考える。 えたのかの理由を添える。 活を想定して、避難所運営を考えてみよう」 時間経過後に開始されると思われる、公助の受け入れ ュニティなどにも配慮する た避難所の特徴と理由を含めて発表する。	グループに,拡大見取り図と付箋紙を配付する。想定が非常に重要である。明確な状況設定のもとすすめる。 (状況設定シート)
まとめ	 ・快適な避難生活を送るために、今から取り組む必要があることを考える。 〈発問〉 「快適な避難生活を送るために、今から私たちがやらなければならないことはどんなことだろう」 ・今日の学習のまとめをする。 		・避難する側, 受け入れ る側双方の視点から考 える。
学習指導要領との 総合的な学習の時間 関連			

自助・共助の態度を身に付ける

03.	災害図上訓練(DIG)	設定時間	100分
学習目標	・災害時のイメージを持ち、地域の危険個所や防災資源を把握する。 ・災害への対処方法を考え、地域防災に貢献する態度身に付ける。		
準備物	・DIG 参考資料(下記参照) ・ワークシート(P.102) ・地図(1/2500) ・透明シート ・文具類(セロテープ,油性ペン(12 色),ベンジン ティッシュペーパー,付箋紙 丸 型力ラーシール A3 用紙)		
教材 参考資料	 静岡県地震防災センター 「災害図上訓練 DIG」 平成 21 年 3 月 http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/manabu/dig/index.htm 総務庁消防庁 チャレンジ!「防災 48」 http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html 		

参考資料 ・総務庁消防庁 チャレンジ!「防災 48」 http://open.fdma.go.jp/e-college/bosai/index.html				
学習活動				
	・学習目標を確認する。 ・災害図上訓練(DIG)とは何かを知る。		・消防庁「防災 48」をもとにすすめる。	
導入	DIG (Disaster Imagination Game) 地域における災害を想定し、地図に危険個所、避難経路、避難場所、 防災インフラなどを書き込みながら、防災対策や避難準備について 話し合う住民参加型ワークショップ。			・「災害の理解」、「まちの探求」、「防災意識の向上」の3つの狙いがあることを補足する。
展開	 ・地震、津波の映像を視聴し、災害のイメージを持つ。 ・準備をする。 ・ りずめ方を聞く。 ・ 災害の発生条件 ・ 凡例の設定 ・ わが街の把握(道路の広さ、鉄道、川・水路、急傾斜地など) ・ 防災施設の把握(避難場所、消防施設、水門、医療施設など) ・ 起こり得る被害の検討(家屋倒壊、浸水、山崩れ、火災など) ・ グループごとに、DIG の結果を発表する。 ・ わが地域の長所・短所 ・ 必要な対策 ・ 自分たちにできること ・ 感想 			 ・地図,透明シートテープで,机上の準備をする。 ・災害発生時の状況をもとに,凡例通りすすめる。 ・昔の地図などを配付するとよい。 ・全員参加を促す。
まとめ	• 学習の	 まとめを	する。	
学習指導要領との 総合的な学習の時間 関連				